



去る8月6日(土)、センチュリーホテルイトウにて愛教研八幡浜支部法制対策部・情報宣伝部共催による「保護者と教育を語る会」が開催されました。本会は、愛教研会員と保護者が当面する教育諸問題について話し合うことにより、互いに理解を深めることがその目的です。当日は、各小中学校の代表者やPTA役員を中心とした多数の保護者の方々にご参加頂き、「安心、安全な学校づくり」について、熱心に協議研修を深めることができました。以下、そのときの協議内容を掲載いたします。

平成23年度「保護者と教育を語る会」 平成23年8月6日(土)

テーマ：「①安全・安心な学校・地域づくり」 「②学校と家庭・地域の連携」

1 開会あいさつ 愛教研八幡浜支部長 小西 基次

本日は、お忙しい中、多数の保護者、ご来賓の皆様にご参加いただき、ありがとうございます。本日の会は、子どもたちを取り巻く諸問題や昨今の現状について保護者と語り合うことで、学校と家庭との連携を深めることを意図しております。2つのテーマについての発表後、分散会での意見交換となっておりますが、ぜひ、積極的な意見交換で本日の会が実りあるものになるよう、お願いいたします。



2 来賓祝辞 八幡浜市教育委員会教育長 増池 武雄

今は、想定外のことはいつ起こるか分からない時代です。このようなときだからこそ、安心・安全について今、真剣に考えていきたいものです。

また、PTAと一般的に言われておりますが、私は「PTCA」と考えています。C(child)、子どもたちのために、教師や保護者が協力し合い、環境を整えていくことが大切です。本日は、そのような方向性についても話合っていただきしたいと思います。川之石小学校では、今、おやじの会の活躍により運動場の芝生化が進んでおりますが、PTAの提案や継続した取組によって、芝生化が成功しているのは、素晴らしいことです。市では、新給食センターの稼働、白浜小学校・喜須来小学校の耐震化工事、喜須来小学校の児童クラブ設立、学校再編検討委員会での検討など、さまざまな教育行政の進展があります。そのようなものについても関連した要望があれば、保護者の方々からぜひ教えていただきたい。本日は、意義ある研修会となるようお願いいたします。



3 問題提起

(1) 学校よりの提言：安全、安心な学校づくり 一子どもたちをめぐる諸問題の解決を目指して一

提案者：川之石小学校教諭 森田 一

真穴中学校養護教諭 田原千恵

- 川之石小学校では、3月11日15時10分頃、地震発生の一報を学校外の職員から受け、インターネットやテレビから情報を収集し、津波警報の発令を把握しました。これを受けて、緊急に職員を招集して対応を協議し、校内に残っていた高学年児童を集め、集団下校をさせることにしました。高学年児童には、テレビの映像を見せ、「川や海などに近づかないこと」、「放送をよく聞き、しっかりと情報を得ること」を指導し、下校させました。1～4年生の児童はすでに下校していたので、教師は、手分けして校区の見回



りや自宅待機の確認にあたりました。

児童の下校後、避難所として指定された本校に、高齢者を主とする地域の方が避難し始めて来ました。その際、少しでも快適に過ごしていただけるように、職員でマット・テレビ・お茶などの用意をし、その後も、避難してこられた方の対応を行いました。

その後行われた研修会で印象に残った話があります。それは、岩手県宮古市にあった防潮堤が、住民の危機意識を低下させてしまい、逆に被害を招いてしまったこと、また、前日までも同じ位置での地震が続いており、地震に慣れ油断を招いてしまったことのお話でした。

先日出席した危機管理研修会で強調されていたこととして、避難計画の冗長化ということも言われていました。冗長化とは、複線化、多層化などの意味で、一つの避難方法がいけない場合も、別の避難方法を考えておくことを指しています。(森田)

- 派遣されて被災地に入り、現実を目の当たりにしましたが、被災した学校には、それぞれ生死の鍵を握る判断がありました。中浜小学校では、津波到達予想時間 10 分ということから「低学年の足では間に合わない」と判断し、屋上に避難したそうです。津波の到達は遅れましたが、屋上からは下りず、危うい面に会いながらも、翌朝へりに救助されたのだそうです。山下第二小学校では、児童の引き渡し作業を途中で中断し、4 km 先の役場に避難しました。PTAの協力なども受けながら低学年を車でピストン輸送し、高学年を徒歩で避難させ、無事避難することができたのだそうです。ふじ幼稚園では、停電のため、テレビや防災無線が機能しなかったため、津波の情報が伝わらず、避難の判断が遅くなり、8人が死亡してしまいました。(田原)
- 川之石小学校では、3月11日以降の対応として、緊急時の保護者へのメール配信を行うようにし、1学期の避難訓練でも、実際に活用してみました。また、津波を想定した避難訓練を行い、校外の高台への避難を行いました。

今回のことから、「安全、安心な学校づくり」のために、3つのキーワードを挙げたいと思います。

1つ目は「情報(新しく、速く、正しく)」です。異年齢集団である小学校の場合、動きに時間がかかります。そのため、正しく、新しい情報がいち早く入る体制づくりが必要不可欠です。2つ目が「つなが(孤立しない、させない)」です。子どもたちが地域の中で被災したときにも、地域とのつながりの中で自分の命を守ったり、信用できる大人の人に命を守っていただいたりできるよう、子どもたちと地域とをつなげていくような機会をつくっていききたいと思います。3つ目は「地域の中の学校へ」です。今回の避難訓練から感じたことですが、学校の外に避難するという際には、地域の方の力をお借りしなければなりません。そのために、いつも「地域の中の学校」という意識を持っておかなくてはならないと感じました。(森田)



(2) 保護者よりの提言：魅力あるPTA活動をめざして

提案者：江戸岡おやじの会 菊池 好彦

江戸岡おやじの会の合い言葉は、「学校に行こう」です。十数年前に、あいさつ運動の気運が高まったものの、男親はあいさつしようにも子どもの顔や名前が分からず困ったため、初代代表の高田耕次会長が、「お互いに子どもたちと知り合える場をつくりたい」と考え、男親仲間で話し合い、キャンプをしようと提案したのが発足のきっかけだそうです。

現在、会員数は50名を超えていますが、日常的に活動しているのは10～15名程度です。モットーは、①無理をして参加しなくていい、②会費を集めない、③思いついたことはする、④他人の子どもも叱る、です。



<裏面に続く>

江戸岡キャンプでは、子どもたちが喜んでくれること・自分たちがやりたいことから考え、プログラムを編成します。活動内容については「愛媛おやじ井戸端会議」という会で教わりました。しかし、人員や資金不足の問題があり、いろいろと苦勞もし、特に安全対策には、特に気を配りました。問題だった資金については、公民館や愛護班活動からの助成を受けて、子どもたちからの参加費は最小限で済むようにしました。

これまでのキャンプで行った体験としては、無水カレー作り、竹細工、ビーズアクセサリ、プラ板、ストラックアウトやキックターゲット、スイカ割り、牛乳パックを使ったホットドッグ作りなどです。

おやじの会の活動は、4つに分類されます。①子どもと交流する活動、②活動資金を得る活動、③社会貢献活動、④ミニおやじの会(企画会議)です。一つ目の「子どもと交流する活動」には、江戸岡キャンプや土曜日学校開放行事があります。土曜日学校開放行事は、週五日制の受け皿として年に5～6回行っています。内容は、おやじの職業や特徴を生かしたものとしており、測量士であることを生かして学校を測ったり、左官業を生かしてびかびか泥団子作りをしたりしました。二つ目の「活動資金を得る活動」には、市主催のイベントでのバザー出店、学校開放行事での市の助成金や祭りでの御輿担ぎなどがあります。三つ目の「社会貢献活動」では、神山小おやじの会との交流行事であるチャリティースポーツ大会内で募金を募って寄付したり、子ども安全パトロールを行ったりしています。四つ目の「ミニおやじの会(企画会議)」は、行事の打合せを兼ねた月一回の飲み会です。細かな連絡事項は、メーリングリストを活用しています。

江戸岡おやじの会の課題としては、「新入会員の減少」があります。顔ぶれが設立当時と変わらず、在校生のいる主要メンバーは2名程度といった現状です。活動のマンネリ化を防ぐためにも、リーダーシップとやる気のある新メンバーの加入が求められています。外に目を向けると、「他校へ波及する取組」ということも課題です。市内で目立った活動をしているのは江戸岡小と神山小だと思っていましたが、今日、川之石小でもされていることを知りました。小学校だけでなく、子どもとの関わりが難しい中学校においてこそ、このような活動が必要ではないかと思います。「地域の子どもは地域で育てる」という意識を高められるようにしていきたいと思います。

4 分散会報告（協議での質疑応答や意見）

(1) 第1分散会

- 今後、芝生化について考えており、父親の参加を募りたいのだが、どうすればよいか。
 - PTA 役員の経験者などに集まっていただき、音頭をとっていただくことがよい。堅苦しくなく、リラックスして集まることから、話を始めてみればどうか。
- 先生方との接点を持ちたいのだが、どうすればよいか。
 - 飲み会ということだけでなく、その前に運動会の片付けを手伝うなどということから始めてみればどうか。そういうところで、交流が深められると思う。
- おやじの会の活動について、公民館との連携はあるのか。
 - ない。
- 芝生化について、どのような取組をされているのか。
 - 朝5時30分に地域の方がスプリンクラーのバルブを開いてくださったり、メール配信を使って呼びかけて作業に参加していただいたりしている。
- 大震災後、被災地の先生方への心のケアはどうなっているか。
 - なかなか進んでいないということが実態だそう。中には、避難所から学校に通ったりする先生や、震災後の1週間何をやってたか分からない先生もいた。
 - ・ 情報を速く、正しくという点では、メールは有効だという意見が多かった。中には、電話でも連絡すると同時にメールも配信するという学校もある。



- ・ 不審者情報については、以前はメール配信を行っていたが、誤報が多かったため、配信しなくなったそうである。
- ・ 震災発生時、ある公民館が避難場所になっていたが、カラオケ教室などが優先されており、避難場所として機能していないこともあった。大人の危機意識を高めていくことも必要である。
- ・ 避難場所を策定するときに冗長化を図るとともに、適切な避難場所を指示されない場合もあるので、適切な避難場所を見極める力も養っていかなくてはならない。

(2) 第2分散会

- ・ 先進的な取組として紹介するが、保内中学校が8月29日に2.5時間かけて避難訓練を行う予定だそうである。消防署と連携して、瓦礫の撤去やAEDの講習などさまざまな活動を行う予定である。「つながる活動」をテーマに、地震発生後の津波への避難なども行うそうである。
- ・ 「想定外」という言葉があるが、本日の発表から避難計画の冗長化を図ることの大切さを感じ、自校から見直しを行いたい。
- ・ 地震のみならず、さまざまなことに対して、訓練をしておくことが大切ではないか。
- ・ 情報ということが話題に挙がったが、メールや電子媒体だけに頼っていると、それらが機能しなくなり、公衆電話の方がよかったということもある。いろいろな情報伝達の手段を考えなくてはならない。
- ・ まず、自分で命を守ることができるようにしていきたい、そうしないといけない。



(3) 第3分散会

- ・ 情報というキーワードから、連絡網か、メールか、どちらが適切なのか議論をして、情報の正確性からメールの方がよいのではないかという意見になりつつあった。しかし、森田先生から「メールアドレスを全員登録することができなかったり、情報機器の不通が発生すること考えると、両者を上手に使い分けていく必要がある。」との話をいただいた。
- ・ さまざまな学校で、各校の実態を踏まえたり地域と連携したりして避難訓練を実施していた。さらに、学校外でも子どもが自分の命を守っていけるような教育も必要ではないか。
- ・ 学校という集団の中には、さまざまな立場の子どもたちがいる。そのことを想定して、避難計画を立てなくてはならない。
- ・ 家族で話し合っ、避難場所などを細かく決めている家庭もある。
- ・ おやじの会のような活動は、小学校だけでなく、中学校にも必要である。中学生が見ず知らずの人から注意を受けて聞けるだろうか、そういった場面でしっかり聞けるようにするためにも、普段からのコミュニケーションを大切にしていきたい。



5 閉会あいさつ

愛教研八幡浜支部法制情報局長 宇都宮 清三

本日は、貴重な発表やご意見をいただき、ありがとうございました。子どもたちを取り巻く諸問題の解決に向けて家庭と学校とが連携していると思いますが、本日の内容を各校で生かしていただき、さらに連携を深めていただければと思います。来賓の皆様、保護者の皆様、先生方、本日の会にご参会いただいた皆様に感謝申し上げます。今後も、暑さの厳しい日が続くと思いますが、ご自愛いただきますようお願いいたします。



